

次代を拓く

国内はもちろん、世界にも通じる静岡県の「ものづくり」。

新技術や新分野への挑戦によって、

世界での活躍が期待される県内企業は後を絶たない。

今号はコア事業の産業機械等での旋盤加工の技術を活かして

宇宙や医療分野の部品製造を行う

静岡市の企業「株式会社平垣製作所」を紹介する。

失敗から学んだ意義と財産
工業分野で丸ものと呼ばれる旋盤加工部品は、その精度によって工業製品の性能を大きく左右する。静岡市にある(株)平垣製作所は従業員20人の中小企業ながら、丸ものに特化した技術で産業機械部品、宇宙産業部品、医療機器部品などの分野で全国的に高い評価を得ている。しかし、1969年の創業から現在まで平垣な道歩んできたわけではない。転機は2002年。半導体パブルが弾けて業績が落ち込むと、同社は旋盤技術を活かして野菜を丸く削る機械を開発して食品業界へ進出する。「結果は採算が合わ

ず大失敗でした。ただ、未知の世界に挑戦する意義と新しい人脈を築けたことは大きな財産になりました」と現社長の平垣徳之さんは当時を振り返る。
失敗を契機に旋盤技術を極めることに目覚めた同社は、ISO9001をベースに品質管理体制を強化。熟練工の技術を継承する取り組みや、難易度の高い製品を生み出す「ものづくり」の楽しさを社内風土にすることにより、工業製品の最難関と言われる宇宙産業部品に取り組んでいく。「目指すなら最高峰。平垣品質が宇宙品質になれば道は開ける」と平垣社長。やがて同社はISO14001、医療機器製造業認可などを次々と取

得し、2013年に鉗子やメスといった診療・手術器具の製造を開始する。
「県中部の技術を結集して世界へ」「やりたいことを発信し続ければ、機会は必ず訪れる」という平垣社長は、昨年10月、県中部の中小機械部品メーカー6社(現10社)、静岡県産業振興財団と新団体「SPMダイカルクラスター(静岡医療機器要素部品生産技術団体)」を設立した。切削、溶接、金型などの技術を結集した同団体の代表でもある平垣社長は「静岡県は医療機器生産金額で全国一。すでに発信力のある県東部のファルマバレープロジェクト(富士山麓先端健康産業

集積プロジェクト)や県西部の医工連携組織などとともに、県中部地区でも医療機器への発信力を高めることができれば、オール静岡としての全国発信に貢献できるのでは」と語る。
人とのつながりを大切にしている平垣製作所は、海外展開や次代の成長分野と言われる宇宙医学の分野にも意欲的だ。静岡の「ものづくり」が描く未来予想図に限界はない。



平垣製作所の品質をアピールするために作られた金属製ワイングラス。同社が掲げる「美しい製品づくり」が投影されている。

旋盤加工を極めて宇宙へ飛翔。



大学生が作るフォーミュラマシンに提供された平垣製作所のホイール部品。



平垣製作所が製造・販売している診療・手術用器具。仕様や使い勝手だけでなく見た目の美しさも兼ね備えている。



1995年に入社した現社長の平垣徳之さん。2004年、34歳の若さで創業者である父親からバトンを託され、二代目社長に就任した。



豊かな自然の中にたたずむ平垣製作所。清水の避暑地にあり、最高の自然環境の中でものづくりを行なっている。

Company Data

株式会社平垣製作所

静岡県静岡市清水区土25 電話:054-395-2306

<http://www.hiragaki-s.co.jp/>

株式会社平垣製作所